

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立稲葉特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校		○児童生徒の教育的ニーズに対応できる高い専門性と信頼性を備え、常に児童生徒を主人公にしなが ら進化する特別支援学校
(2)	育みたい 児童生徒 像	○基本的な生活習慣を身につけている。心身ともに健やかな児童生徒。 ○人と楽しく関わることができ、社会の一員として自立に向けた確かな力を身につけている。 ○卒業後の姿を具体的に描き、その実現に向け、さまざまな経験を通して、主体的に自分の課題に取り 組んでいる。 ○「持続力」と「意欲をもって物事に向かう力」を身につけている。 ○自他を大切にできる心情や行動力を身につけている。
	ありたい 教職員像	○公務員としての自覚と高い規範意識を持ち、法令や服務規律を遵守するとともに、互いに適切な助言 をし合える教職員。 ○「子どもたちの未来を育てる使命と誇り」を持ち、仕事を通じ、自身も成長し、共に学び合い感動を分か ち合う教職員。 ○専門性の向上のため自己研鑽に努め、共に学び合い、授業を中心に据えた取組を進める教職員。 ○変化を受け入れ、柔軟で、新しいことにも積極的に挑戦する教職員。 ○「チーム稲葉」として校務運営等に積極的に建設的に参画する教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手とそこか らの要求・期待	<p>〈児童生徒〉卒業後に社会の一員として各子どもに応じた自立できる確かな力を育ててほしい。</p> <p>〈保護者〉児童生徒にとって、安心安全に学べる場所であってほしい。子どもの教育的ニーズに応じた教育を 実践し、生きる力を伸ばしてほしい。日頃から教職員の資質向上に取り組んでほしい。(障がい理解、保護者や児童生徒の気持ちの理解)</p> <p>〈センター的機能を必要とする機関〉特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について、専門的な支援 をしてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携する うえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈関係機関〉子どもたちや家庭の課題、あるいは子どもたちの進路について、学校と緊密に連携しながら 取り組み、解決を図りたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について、専門的・具体的な指導・助言を行って ほしい。</p> <p>地域の中の学校として、地域とのつながりを大切に してほしい。</p>	<p>〈関係機関〉ネットワークを通じて、子どもや保護者の生活を各機関それぞれの専門性を発揮し、支 えてほしい。</p> <p>卒業後の進路先としてニーズにあった生活環境や職場環境を整備いただきたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援を必要とする子どもたちが生涯にわたって暮らしやすい環境になるように、適切な 指導及び必要な支援の充実に取り組んでほしい。</p> <p>本校の子どもたちへの理解と協力をお願いすると共に、本校との連携を図ってほしい。</p>
(3) 前年度の学校 関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の活用について、どのような活動がどういう学びに繋がるかという観点で計画されるとよい。 ・「新型コロナウイルス感染症対策のため、授業参観が難しかった」とある。参観方法を模索されてはどうか。 ・防災について、いなば園や地域との合同避難訓練をするのもよい。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、地元自治会との顔を合わせた交流がストップしたままである。新しい交流のあり方を模索していきたい。 ・保護者アンケートの結果が必ずしも保護者の本音とは限らない。アンケートの設問を工夫してもらってはどうか。 ・「いじめ・体罰に関する実態調査」を年2回学校では実施されているが、発語のない子どもは訴えることができないので、より教員は意識を高く持ってほしい。 ・職員の働き方改革の成果指標で「一人当たりの年間休暇取得日数が昨年度以上」とある。「最低〇日取得する」といった具体的な目標の方が一人ひとりの実行性に繋がるのではないか。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教育活動に様々な制限がかかり、できていない活動がある。本校卒業後の生活を考えると在学中に活動を実現したい。 学校間交流をはじめ外部との交流について、あらためて目的を明確化したい。手段について、対面実施が困難な場合の代替手段も当初から計画しておく必要がある。 新型コロナウイルス感染拡大防止について、これまで行ってきた対策は継続徹底する。家庭とのさらなる連携強化が必須である。 職員自身の挨拶の励行と、「さんづけ」呼称について、徹底しきれていない。 ICT 機器の活用について、令和2年度は機器の導入、令和3年度はとにかく授業で使ってみる、と進めてきた。令和4年度はつきたい力から教育活動の中で ICT 機器を活用する場面と方法を考える。 人と関わることを苦手とする児童生徒が多く、社会性を伸長するための取り組みを、日常的・計画的・意識的に続ける必要がある。 児童生徒の障がいの多様化、不登校や問題行動等の児童生徒に係る諸課題の捉え方が変化する一方、そのアプローチや対応が定まらず混乱している状況の中で、また、日々の家庭生活・養育上の課題等を抱える家庭もある中、教育のみならず医療機関や福祉機関等との密接な連携が必要な児童生徒が増加している。積極的に関係機関とつながり、必要な時は専門家を派遣要請し、連携する。 高等部卒業と同時に生活の場を確保しなければならない生徒のため、卒業後を見通した、福祉機関等との密接な連携が必要である。 「生きる力」を育むため、学校での教育活動全般をキャリア教育の視点で捉え、子どもにとって本校での在学期間中に学ばせることの改善を家庭と連携し進めることが重要である。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業参観がほとんど実施できなかった。実施できなかった時に授業風景を見られるような代替手段を検討する必要がある。また地域住民との交流の機会がなくなっているので、学校を知ってもらう代替手段の検討が必要である。 保護者の思いを学校が必ずしも受け止められていない 施設・設備の老朽化、職員室の密の解消が課題である。 近年、臨時校内研修が増加傾向にある。年間を通じた計画的な校内研修の構築が必要である。 危機管理体制の充実について、保護者・地域・近隣施設と連携し、訓練内容を見直すなど、より実践的な取り組みが急務である。 教職員の過重労働時間削減。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「社会自立に必要な力」を高める。 ○自他の心情や命を大切にすることを育てる。 ○「考える力」を培うとともに、「忍耐力」や「意欲をもって物事に向かう力」を身につける。 ○健やかな心身を育てる。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人ひとりの専門性を向上させる。 ○特別支援教育のセンター的役割を充実・深化させる。 ○安心安全な教育環境を整備する。 ○「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
感染防止と教育活動の両立	<p>学校行事等について感染防止対策を行いながら実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(小学部) 日常的にマスク着用をし、着用が難しい児童は、継続的な練習や、フェイスシールドの使用に取り組む。</p> <p>(中学部) 正しい手洗いや、マスク着用の方法を身につけさせる指導を行う。</p> <p>(高等部) 対人的な距離感を理解させる指導を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・教育活動による感染拡大件数 0 件</p>	<p>(小学部)</p> <p>・マスク着用を練習する時間や絵カードを用いてマスク着用を促すなど、継続的な取り組みを行い、マスク着用の時間は伸びつつある。</p> <p>(中学部)</p> <p>・各学年の授業（自立活動）で、正しい手洗いやマスクの着用の仕方を学習した。また、日常的に個別の指導を行った。</p> <p>(高等部)</p> <p>・学部集会や朝の会、帰りの会で対人的な距離感を理解させる指導を行った。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・教育活動による感染拡大件数 0 件</p>	◎

<p>「社会自立に必要な力」を高める。</p>	<p>児童生徒や保護者の思い、地域や関係機関及び産業界等の期待をしっかりと把握し、将来の姿を見据えた小学部から高等部までの一貫したキャリア教育を推進する。またその際は各関係機関と連携し、引き継ぎツール等を活用しながら、一人ひとりに応じた教育指導を進める。</p> <p>【活動指標】 (各学部) キャリア・パスポートを軸とした保護者懇談会を行う。 (進路指導部) 適宜、関係機関と情報共有する。特に高等部3年生は個別の移行支援計画を作成し、2月に移行支援会議を行う。 (教務部) キャリア教育プログラムに基づく個別の指導計画の作成。キャリア教育プログラムの見直しを随時行う。</p> <p>【成果指標】 ・教育支援に満足している児童生徒及び保護者の割合 80%以上</p>	<p>(各学部) ・キャリア・パスポートを軸とした保護者懇談会を実施。 (進路指導部) ・適宜、関係機関と情報共有できた。特にハローワーク、児童相談所、市町福祉課とは4月の進路懇談会、高等部3年生の進路指導を中心に連携した。 (教務部) ・個別の指導計画にキャリア教育プログラムの観点を記入し評価を行った。プログラムは現状のまま運用し改訂はしていない。</p> <p>【成果指標】 ・教育支援に満足している児童生徒及び保護者の割合 81.5%</p>	<p>◎</p>
<p>自他の心情や命を大切にす る心を育 てる。</p>	<p>自他の命を大切にし、社会性を身につけさせ、自尊感情を育みながら具体的な指導を継続して進める。</p> <p>【活動指標】 (小学部) クラスの友だちの前で、自分のことを伝える取り組みを授業の中に組み入れる。教員の言葉がけに対し挨拶や返事ができるように指導する。 (中学部) 生徒が自分の感じたことや特技を発表する機会を設ける。 (高等部) 自己紹介シートやキャリア・パスポート等を活用して、自己を振り返る機会を持たせる。 (人権教育・研修部) 「人権ガイドライン」を教材として授業等で活用し、人権問題に対する正しい認識を高め、命を大切にす る心を育てる。</p> <p>【成果指標】 ・自分の長所が言える児童生徒の割合 80%以上。 ・挨拶ができた児童生徒、小 30%、中 50%、高 80%以</p>	<p>(小学部) ・授業での継続的な取り組みの中で、自分が伝えたいことを言葉やカード等を使って伝えようとする児童が増えた。 ・言葉がけや繰り返しの学習により、あいさつや返事、タッチ等をする事ができた。 (中学部) ・毎月の学部集会で特技や自分の感じたことを発表する機会を設けた。毎日のホームルームで、その日の出来事や思ったことを発表する機会を設けた。 (高等部) ・ホームルームで、自己紹介シートやキャリア・パスポート等を活用して、自己を振り返った。 (人権教育・研修部) ・「人権ガイドライン」を参考にし、コロナ禍における差別を防止するための「人権だより」を配布し、啓発活動を実施。 ・人権自己チェックを6月に実施</p> <p>【成果指標】 ・自分の長所が言える児童生徒の割合（児童生徒の長所把握含む） 68.1% ・挨拶ができた児童生徒 小 74.5% 中 93.5% 高 90.2%</p>	<p>◎</p>
<p>「考える力」を培うとともに、「忍耐力」や「意欲をもって物事に向かう力」を</p>	<p>ICT 機器も活用しながら、児童生徒の「考える力」「忍耐力」「意欲をもって物事に向かう力」を向上させる。</p> <p>【活動指標】 (小学部) ICT 機器を活用する方法を工夫したり、活用する教科を増やしたりして、意欲的に授業に参加させる。 (中学部) 教室に配置されている appleTV や、プロジェクター、iPad を積極的に活用し、生徒の学習意欲を高める。 (高等部) 授業や行事で、ICT 機器を活用して、生徒の「意欲をもって物事に向かう力」を高める。</p>	<p>(小学部) ・学部研修で、アプリや iPad の活用の研修を行った。また、iPad やタッチペンなどの ICT 機器を使用し、朝や帰りの会、課題、各授業で活用する場面が増えてきている。</p>	

<p>身につける。</p>	<p>(図書視聴覚情報) 各学部研修部と連携しながら授業の中でICT(パソコン・ipad・プロジェクターなど)が活用しやすい環境づくりに取り組む。各学部の職員に対して ICT 機器に関する研修を行い、授業や行事で ICT 機器を活用する。</p> <p>【成果指標】 ・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 80%以上</p>	<p>(中学部) ・授業で、appleTV をはじめとする ICT 機器を積極的に活用した。生徒の学習意欲を高めるために、ソフトウェアの使い方を工夫した。 (高等部) ・授業や行事で、タブレットやappleTV を活用して、生徒の「意欲をもって物事に向かう力」を高めた。 (図書視聴覚情報) ・各学部、実態に応じたアプリの活用、プロジェクターでのパワーポイント資料や動画を投影し、意欲が高められるように取り組めた。</p> <p>【成果指標】 ・学校の学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 74.6%</p>	
<p>健やかな心身を育てる。</p>	<p>日々の児童生徒の「生きる力」の基盤となる体力作りを推進する。 【活動指標】 (小学部) からだタイムでリミックを中心に基礎体力作りを行う。 (中学部) 毎日朝の運動を実施する。 (高等部) 朝の運動で、毎日いなば園周を3周走る。 (保健安全部) ・各学部とも食に関する授業を行う。 ・各学部、授業などで保健指導を行う。 ・健康相談を実施し、校医や専門機関との連携をはかり、個々に応じた問題解決に努める。</p> <p>【成果指標】 ・「運動が楽しい。」と回答する児童生徒の割合 70%以上。 ・給食における食品ロスの減少。</p>	<p>(小学部) ・からだタイムのリミックや校内歩行等で、継続的な基礎体力作りを行っている。 (中学部) ・朝の運動を毎日行った。目標に合わせた個別の指導を行い、体力作りをすすめた。 (高等部) ・朝の運動で、毎日いなば園周を3周走ることを目標に、個別に指導を行った。 (保健安全部) 【食に関する指導】 一学期に小学部3回、中学部3回、高等部18回。各クラス又は学年で年間3回ずつ指導。 【給食】 6月に残食量調査を実施。11月にも実施し、その差から食品ロスに関する取り組みに繋げている。 【保健に関する指導】 1学期に中学部保健集会1回、高3対象の性と生の学習を行った。 【成果指標】 ・「運動が楽しい。」と回答する児童生徒の割合 79.4% ・昨年度同様、給食における食品ロスに取り組み、減少値を維持している。</p>	

改善課題

- 感染防止対策については国・県の動向を踏まえながら実施したが、学校行事等においては制限を設ける必要があった。
- 本年度はキャリア教育や学びの連続性を重視した対応を様々な活動で進めたが、今後もより一層進めることが求められている。
- 社会環境の変化や児童生徒の多様化を受け、効果的なアセスメント等による児童生徒の実態把握、教育内容や時間の配分の不断の見直し、教育課程の実施状況に基づく改善などを通じて、教育活動の質を向上させることが急務である。
- ICT を活用した教育の在り方については、さらなる研究・実践が必要である。
- 児童生徒の健康についても新しい取組が求められている。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員一人ひとりの専門性を向上させる。	年間を通じた計画的で満足度の高い研修会の実施 【活動指標】 (支援部) はっぴーのーと・パーソナルファイルの活用促進、支援ツールの普及啓発を行い、児童生徒の指導に生かす。年金研修会で卒業後の年金制度について、保護者と共に教職員も学ぶ。地域支援研修会の開催に伴い、専門性の高い地域支援を行う。 (人権教育・研修部) ・年間に行う研修を精選し、必要な研修を適切に行う。 ・教科等の専門性を高めるために、学部を枠を外して教科別にグループを作り、年2回授業実践を持ち寄り意見交換を行う。 ・学部のニーズに応じた研修を、実施する。 ・本校のニーズに応じた全学で行う全体研修会を年1回以上実施する。 (進路指導部) 職員・保護者対象進路研修会を行う。	(支援部) ・PTA総会で、自閉症協会の方に来校いただき、はっぴーのーと説明会を開催した。 ・地域支援研修会では、かがやき特別支援学校より講師を招き講演を行った。地域より19名が参加、本校職員もオンラインで参加した。 ・年金研修会を、1月に開催した。 (人権教育・研修部) ・年度初めに、実施する研修の計画を集約して全体に周知して進めている。新・転入者に向け学校紹介を主とするフレッシュャーズ研修を実施した。 ・学部交流研修は、7月20日に実施。教科単位に学部を超えて集まり授業についての意見交換をした。 ・夏期休業中に夏期専門研修として、窯業、ポッチャリズムステップ、音楽について校内職員を講師として実施した。 ・各学部において必要な研修を計画し実施している。 ・人権教育の充実に向けて、10月19日県教委人権教育課から講師を招き、人権教育ガイドラインから「人権教育の目的と目標を理解する」として研修をした。 ・11月21日キャリア教育についての研修会を実施した。 ・1月16日人権教育研修会を実施した。 ・3月9日第2回学部交流研修会を実施した。 (進路指導部) ・7月29日(金)に百五管理サービス株式会社の森永豊様を招いて進路研修会を実施した。また、11月21日(月)には校内進路研修を行った。	◎
開かれた学校への展開	情報発信をすすめるため、ホームページの充実、授業公開、学年・学部懇談会、学校見学会、交流等を実施する。 【活動指標】 (支援部) 学校見学会、研修会を実施、全員支援会議体制の確立。「INABA TIMES」の発行 (学校全体) ホームページのタイムリーな更新による情報提供	(支援部) ・8月3日～5日まで小学部中学部支援会議を開催した。25名の児童生徒について、保護者や関係機関と情報共有を行った。 ・高等部は、6月から7月にかけて主に、施設から通学の生徒を中心に17名の生徒について支援会議を開催し、関係機関と情報共有を行った。 ・INABA TIMESを5月と7月に発行し、福祉情報を提供した。	※ ※

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がわかると回答する保護者の割合 80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会については、11月21日に開催した。 (図書視聴覚情報) ・各学部・分掌の担当者と適時更新を行い編集の仕方について、個別指導を行った。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がわかると回答する保護者の割合 89%。 	
<p>安心安全な教育環境を整備する。</p>	<p>児童生徒の危機対応、学校防災の対策等を行う。 また、施設設備の安全確保とともに、教職員の不祥事を根絶することにより、安心安全な教育環境を整備する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(危機管理全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応訓練(小学部) 救急救命講習会、医療的ケア緊急対応訓練 緊急地震速報を活用した抜き打ち型避難訓練、不審者対応訓練 避難訓練(地震、火災)、失踪時対策訓練、交通安全教室 災害時安否確認地区担当者会議、スクールバス避難訓練 発作時の対応講習会等の実施 個人情報の取り扱いの注意喚起、ヒヤリハットの情報共有 <p>(事務部) 旧寄宿舎棟から高等部教室へ安心安全な教育環境を整備するための改築を進める。</p>	<p>(小学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に、けが、発作時における緊急対応訓練を行い、緊急時の体制について共通認識することができた。 <p>(総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの避難訓練を6月に実施した。非常口からの避難を想定し、必要な機器の設置場所や操作方法を確認した。引き渡しカードを使っでの訓練も行った。 ・災害時安否確認地区担当者会議で担当児童生徒と自宅/避難所を確認した。(6/20) ・スクールバス介助員を対象とした緊急時対応のための研修を実施。(9/21・11/30) <p>(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を活用した避難訓練を実施。(4/26) ・失踪時対策訓練(4/11)、交通安全教室(5/6、5/11)を実施。 <p>(図書視聴覚情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心メール加入に向けて4月当初に新規加入をつるためのプリントを配布。加入状況をエクセルデータにして可視化し随時情報を発信した。 ・放課後支援の事業所に向けて、安心メールでの情報共有を行った。 <p>(保健安全部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア緊急対応訓練を実施した。(4/22) <p>(人権教育・研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権自己チェックを6月・9月に実施した。 <p>(危機管理委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事象の情報共有等を行い、緊急時の対応について確認した。 ・緊急時に放送室機器が使用可能か点検を行った。 ・マスターキー使用の廃止に向けて、取り組みを始めた。 <p>(事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧寄宿舎棟等への移動を確認するための防犯カメラを更新した。 ・改築工事の工程表を全職員で共有し、工事を進める。また、問題が発生した際には、その都度確認を行う。 	<p>◎</p>

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理・防災について「意識が向上した」と回答する教職員の割合 80%以上。 ・コンプライアンスに関する目標を設定した教職員 100%。 	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理・防災について「意識が向上した」と回答する教職員の割合 91%。 ・コンプライアンスに関する目標を設定した教職員 100% 	
「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。	<p>教職員一人ひとりが持てる力を発揮し、健康で活力ある「チーム稲葉」としての組織づくりを進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 80%以上 ・学部間人事交流の定着化。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりの月平均時間外労働時間 10 時間以下 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0 人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 4 月～12 月 10 日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 79.6% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 80% <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たり月平均時間外労働時間 6.6 時間 (12 月末現在) ・月 45 時間以上時間外労働延べ 11 人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数 3 人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 4 月～12 月 6.3 日 	※

改善課題

- 急激な教育環境の変化に対応できる教職員研修や校内組織等の環境整備が求められる。
- ICT を活用した連絡システムについて導入を検討し試行した。今後の本運用に向けランニングコストや担当者の業務量等の課題を整理し、よりよいシステム構築を行う。
- 児童生徒の安全に関わる事案が発生し、効果的な対策を講じ再発防止に努めているが、新高等部棟も完成し、より一層「安心安全な学校づくり」が推進できるよう、校内体制の整備が急務である。
- 働き方改革については、一部教員の時間外在校時間が多くなる傾向がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○国・県の動向を踏まえながら、学校の実状に合った感染対策を検討して欲しい。 ○小学部から高等部、そして卒業後の社会自立に向けた更なる取り組みや社会環境や児童生徒の多様化に対応した教育活動の質を向上させる取組など、学校として教育の質をより一層高めることを目指すべき。 ○ICT を活用した教育の在り方への研究・実践や連絡システムの構築を期待している。 ○本年度の取組の方向性の延長として、さらなる「安心安全な学校づくり」への校内体制の整備を進めていただきたい。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ●感染対策については、国・県の通知を踏まえ、よりよい学びにつながるように対応していく。 ●小学部から高等部までの12年間を見据え、カリキュラム・マネジメントの更なる推進を図り、授業の充実につなげる。 ●効果的な ICT 活用を進めるための推進体制の校内体制を整備する。 ●口腔衛生について、新しい取組を研究する。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ●危機管理に対応する部署を新設し、「安心安全な学校づくり」をより一層強力に推進する。 ●校務支援システムの導入等を見据え、校内の各種業務について整理・検討する。 ●コンプライアンス・働き方改革については、教職員一人ひとりが主体的に進められるよう、新たな取組を検討・実施する。